小原さん（法4）の論文
『専修ゼミ連論集』最優秀賞に

「命名の法理―子の命名権と改名の『正当な事由』」

法学部ゼミナール連合会が募集する『専修ゼミ連論集』の本年度最優秀賞に小原遙一さん（法4・山田創一ゼミ）の論文「命名の法理―子の命名権と改名の『正当な事由』」が選ばれた。

キラキラネームや珍奇ネームなど奇抜な名前が話題になっているが、小原さんは法の視点から命名権とはだれが持つ権利なのか、どのような場合が権利の濫用となるのかを考察した。

「非常に面白い。社会的にも興味の持たれているテーマである」（佐々木和夫法学部准教授）、「これまであまり検討されなかった問題を主題とし、学説、判例もよく読みこなした優れた論考」（内藤光博同教授）――と審査にあたった教員から高く評価された。

同論文は小原さんの卒論として完成。山田ゼミの他の4年次生の卒論とともに合本され（総498ページ）、神田キャンパスの図書館自由閲覧室に配架された。山田ゼミの卒論合本は本年度で13号となる。

小原さんは「山田ゼミに入る前に図書館で手にした先輩たちの分厚い卒論を目標にしてきた。4年間の努力が実を結びました」と喜びを語った。4月から茨城県警察官に。「初心を忘れず信頼される警察官になりたい」と夢を膨らませる。

山田ゼミ後輩の白井大雅さん（法3）の論文「失火責任法と工作物責任の関係について」も「専修ゼミ連論集」の優秀賞に選ばれた。2人の論文は『専修ゼミ連論集』第7号に掲載、同図書館のラウンジコーナーで読むことができる。

▲　左から山田教授、小原さん、白井さん。山田教授の背後には歴代の山田ゼミの卒論合本が

3人が後輩に「卒論」披露
社会学科代表論文発表会

優れた卒論を書き上げた4年次生が後輩らに披露する人間科学部社会学科の代表論文発表会が、1月28日、生田キャンパスで開かれた。3人が約200人を前に発表した。

代表論文は同学科14ゼミナールの指導教員が審査。3つの研究・学習領域（▽文化・システム▽生活・福祉▽地域・エリアスタディーズ）から1作ずつを選んだ。

「プロ野球応援はなぜ盛り上がるのか　宗教という観点から分析」を書き上げた川幡小珠美さん（川上周三ゼミ）は、プロ野球のスタンドでの熱狂的な同一行動を、仏社会学者E・デュルケムの宗教論から説いた。

「高齢者観と学校教育」をまとめた佐野優貴さん（馬場純子ゼミ）は、地域包括ケアシステムの将来の担い手となる子どもたちに「高齢者観」を身につけさせる学校教育の必要性を語った。

最後に登場した池田和希さん（大矢根淳ゼミ）の卒論「柳田風景論に基づき解釈する富岡町民（強制避難対象者）がもつ『さくら』と『浜』への想いによって模索された生活の選択肢」は400ページを超える大作。福島第一原発の事故により故郷を追われた原発事故避難者の現実を、丹念な聞き取り調査と写真撮影ですくい取った。それぞれの発表にティナ・ヒューゲルさん（特別聴講生）、古俣皐月さん（修1）、谷優希さん（同）が講評した。

（池田さんの卒論は本紙前号で既報）

▲　会場の質問に答える川幡さん（中央）と左・池田さん、右・佐野さん

日経STOCKリーグ
商・渡邊ゼミチーム3年連続入選

商学部・渡邊隆彦ゼミのチームが株式学習コンテスト「第16回日経STOCKリーグ」（日本経済新聞社主催）に入選した。鈴木涼介さん、仲林寛晃さん、小川智さん、水谷綾汰さんの4年次生チームで、仲林さんは2年次から同コンテストに応募、3年連続入選メンバーとなった。

日経STOCKリーグは中学生・高校生・大学生向け株式学習コンテスト。独自にテーマを決め投資する企業の組み合わせを考えて論文にする。今年は全国2244校（大学122）から1429チーム（同672）が応募。最優秀賞や部門賞など9チームのほか80チームが入選した。

鈴木チームのテーマは「Innovation for Society」。停滞する日本経済の活性化を目指し、東京のビジネス街に「アジアヘッドクオーター特区」を設置して新しいヒトとカネを集めようというもの。東京のオフィス街「大丸有（大手町・丸の内・有楽町）エリア」にある大林組、ライオンなどを投資企業に選んだ。

リーダーの鈴木さんは「ほぼ毎週大丸有エリアを歩き変化していく街の姿を見てきた」、小川さんは「日常の小さな変化にも気づくアンテナが大事」と足を使って街を見る大切さを挙げた。また卒業後は北海道にUターンする水谷さんは「実体験で得たことを今後に生かしていきたい」と話す。

4月から医薬品商社に就職する仲林さんは「ゼミで投資を学ぶことで社会問題を一層考えるようになった」と振り返った。

▲　左から水谷さん、仲林さん、小川さん、鈴木さん

学部長賞

商学部――27人が受賞

商学部の学部長賞表彰が2月3日、生田キャンパスであった。学部長賞に27人が、学部長奨励賞には4グループ及び個人7人が選ばれ、佐々木重人学部長から賞状が贈られた。

学部長賞は公認会計士試験合格者や、囲碁やスポーツの大会で優勝した選手などを顕彰。卓球の全日本選手権混合ダブルスで優勝した田添健汰さん（2年次）は「道は厳しいが世界チャンピオンになるのが夢。後輩に良い刺激を与える存在でありたい」と抱負を語った。

受賞者は次のとおり（敬称略、カッコ内は学年）。

【学部長賞】林友樹（4）沼倉昴（4）浦山竜弥（4）村田真奈美（4）伊関千裕（3）藤林沙羅（3）佐藤瑞紀（3）牧野成譲（3）山本陽野（3）佐野雅也（4）大関稔（二部1）荒木琢磨（4）厚谷武志（4）鈴木李茄（3）田添健汰（2）安藤みなみ（1）入江真子（4）二川祥（4）大當祥貴（2）高橋風子（4）菊池小巻（1）高橋礼（2）原田駿（4）中村倫也（3）松尾侑亮（2）松井涼（2）桑山裕貴（1）

【学部長奨励賞】櫻井康弘ゼミ（魏詩丹・3）同（野崎麻友・3）奥瀬喜之ゼミ（加藤真応・2）渡邊隆彦ゼミ（仲林寛晃・4）川俣美慧（3）佐久間瞭（4）前川結子（4）齋藤涼平（3）佐藤諒也（3）吉澤和恭（3）笹澤芳香（4）

▲　佐々木学部長から賞状を贈られる田添さん（右）

▲　喜びを語るネットワーク情報学部長賞の受賞者

ネット情報――2グループ2人

ネットワーク情報学部の学部長賞表彰が1月26日、生田キャンパスであり、2グループ2個人に江原淳学部長が賞状を授与した。表彰式には1年次生約200人も参加。

受賞者は喜びの言葉とともに「2年次での演習にしっかり取り組んで、受賞できる能力を身につけてください」などと1年次生に向けて語った。

受賞者と授賞理由は次のとおり（敬称略、カッコ内は学年）。

▽青山翔音、上田紘久、竹内万由▽河原崎亮、井口拳、山下紗世、佐野蔵太郎（すべて3）＝第6回かながわNPO映像祭優秀賞▽宇野雅（4）＝2015年度公認会計士試験合格▽中嶋健介（2）＝第14回専大ベンチャービジネスコンテスト鳳賞

優秀論文発表会
経済学研究科

大学院経済学研究科修士課程の「2015年度優秀論文発表会」が3月12日、神田キャンパスで行われた。

▲　論文を発表する作村さん

徳田賢二研究科長、中野英夫教授、院生らが聴講するなか、4人が論文の概要を報告。また後輩に向け、論文の書き方や執筆時の苦労などを伝えた。

◆発表者（敬称略、カッコ内は専修科目・指導教授）

▽山本英明（財政学・中野英夫）▽串田耕一（財政学・中野英夫）▽作村寛子（租税政策・星野泉）▽柳下真英（租税政策・原田博夫）